

第1学年 体育科学習指導案

平成26年11月27日(木) 第5校時

1年2組 24名

指導者 略

- 1 領域 ゲーム(ボールゲーム)
2 単元名 『ボール投げゲーム～楽しんで投げよう・当てよう・つかもう～』

3 単元の見目

- ボールを片手で投げる、的に当てる、つかむなどの簡単なボール操作をすることができる。(技能)
- 失敗をおそれず運動に進んで取り組み、仲間と仲良く楽しんで運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。(態度)
- ゲームのきまりを工夫したり、自分の力に応じた目標を立てたりすることができる。(思考・判断)

4 指導について

○ボールゲームでは、ボールを投げる、当てる等の技術と同様に、仲間と協力してゲームを楽しむことの工夫や楽しいゲームを作り上げることが重要な課題となってくる。集団で勝敗を競うゲームでは、ゲームのきまりを工夫し、投げる、当てる等の簡単な動きを身につけることで、ゲームを一層楽しくしていくことが学習の中心となる。また、ルールや決まりを守ろうとする態度、特に勝敗の結果をめぐって正しい態度や行動が取れるようにすることが大切である。

○本学級の児童は男子13名、女子11名で、1学期に行ったアンケートの「体育の学習は好きですか」という問いに18名の児童が「好き」と回答している。休み時間には、8割ほどの児童がサッカーやおにごっこ、遊具などで体を動かして遊んでいる。クラスの仲間で行う遊びや活動に楽しんで参加する児童が多く、教室で折り紙遊び等を好む児童もいるが、学級全員で遊ぶ時間には、どの児童も喜んでドッジボールやリレー、おにごっこ等の遊びに参加している。体育の跳び箱遊びでは、跳んでいる児童の動きに合わせて、手をついたり跳び箱の上に乗ったりするタイミングをみんなで声かけする活動を楽しんで行っていた。

1学期に体力テストの事前指導としてドッジボールの投げ方を1時間指導した。半身に構えて片手でしっかりとボールを持ち、肘が下がらないよう維持してボールを前に押し出すことを意識させた。指導後、誰もいない場所に向かって投げさせた時は、ほとんどの児童が3メートル以上投げられるようになった。しかしその後、ペアでパス・キャッチをさせると、前述した点を十分に意識できない児童が多かった。短い距離でもうまくパスできず、全体としてキャッチの練習をすることができなかった。

体育についてどう思っているのか、ボール運動に対する意識を知るため1学期の終わりにアンケートを行った。結果は以下の通りである。

①体育の学習は好きですか。

好き・・・18 嫌い・・・5

②次の運動のうち、好きなものはどれですか。(複数回答可)

ボール運動・・・17 鉄棒を使った運動・・・12 マット運動・・・7 ダンス・・・3
水泳・・・19 跳び箱運動・・・11 走る運動・・・13

③ボールを使って、どんなことができるようになりたいですか。

強く投げること・・・17 遠くに投げること・・・16

つかむこと・・・19

相手にうまくパスすること・・・17

④ボール運動が苦手な人は書いてください。なぜボール運動が苦手なのですか。

うまく投げられないから・・・3

当たると痛いから・・・4

⑤ボール運動で好きな運動、やってみたい運動を書いてください。

キャッチボール・・・7

ドッジボール・・・12

バスケットボール・・・4

サッカー・・・9

野球・・・8

バレーボール・・・2

アンケート結果から、ボールを強く投げたり遠くに投げたりすることと同様に、相手にうまくパスをしたい、こわがらずにボールをつかみたい、という思いを持っている児童が多いということがわかった。実際に、普段から朝のチャレンジ運動や休み時間など多くの機会にドッジボールを行っているため、アンケートに答える際、ドッジボールのことを思い浮かべていた児童が多いと思われる。

○本単元では、ボールを投げて的に当てるような簡単な遊びから始めてボールの扱いに慣れ、最後は少人数制のドッジボールに積極的に参加できるような活動につなげていく。ボールの扱いに慣れていない児童には的当てゲームを通し、「ねらった的に当てられた」「遠くまで投げられるようになった」という実感を持たせることで、ボールを扱うことに対する苦手意識を無くし自信をつけさせたい。児童がお互いに助言し合い学び合うことができるよう、単元を通して、ボールの扱いが得意な児童と苦手意識のある児童をペアにして学習活動を行う。それぞれのペアで「さっきの投げ方よかったよ」「つかめた！すごい！」等の声をかけ合ったり、良いところや改善点を助言し合ったりすることを常に意識させ学習活動を行っていきたい。単元の後半は、小さなコートで逃げる場所が制限された、ポイント制の中当て「はしごドッジ」を行う。当たった数、つかんだ数を得点とすることで、苦手な児童には逃げることなく思い切ってボールに触れられるように、得意な児童にはより強いボールを投げられるよう意識させることで、ゲームに楽しく取り組ませられるようにしたい。

5 評価規準

関心・意欲・態度	①楽しみながら、すすんでボール運動に取り組もうとしている。 ②ルールやきまりを守り、ゲームを楽しもうとしている。 ③場や用具の安全に気をつけて活動しようとしている。
思考・判断	①ゲームを楽しむためのルールを工夫することができる。 ②ゲームの行い方を知り、ペアやチームで協力して目標を立てることができる。
技能	①ボールを投げて的に当てるなどのボール操作をすることができる。 ②自分に向かって飛んでくるボールを抱えるようにしてキャッチすることができる。

6 単元の計画と授業時数

ゲーム			
1年生		2年生	
【5時間】	【8時間】	【7時間】	【7時間】
鬼遊び	ボールゲーム	鬼遊び	ボールゲーム

↓

ボール投げゲーム（1年生）	
1～4	5～8
ボールを投げることによる的当てゲーム 投げる・つかむを繰り返す「パスゲーム」	ボールを投げたり、つかんだりする ポイント制の中当て「はしごドッジ」

7 指導と評価の計画

時間	主なねらい・学習活動	学習活動に即した評価規準		
		関心・意欲・ 態度	思考・判断	技能
1	<p>1 オリエンテーション</p> <p>ボールとともだちになろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元で行う学習活動の流れを知る。 ・ペアの名前を決める。 ・個人の目標を決める。 <p>2 ボールを使った4種類の運動をする。</p> <p>3 ふりかえりをする。</p>	① ③		
2	<p>1 用具の準備、準備運動</p> <p>2 めあての確認</p> <p>なげる力をパワーアップさせよう！</p> <p>3 ボールに触れ親しむ運動をする。</p> <p>4 「フープシュート」サッカーゴールに取り付けたフラフープの的をめがけてボールを投げる。</p> <p>5 後片付け、整理運動、ふりかえりをする。</p>	③		①
3	<p>1 用具の準備、準備運動</p> <p>2 めあての確認</p> <p>ペアで力をあわせてゲームをしよう！</p> <p>3 ボールに触れ親しむ運動をする。</p> <p>4 「段ボールくずし」ペアごとに台の上に設置した段ボールを倒す。ペアで行い得点をつける。</p> <p>5 後片付け、整理運動、ふりかえりをする。</p>	②	②	
4	<p>1 用具の準備、準備運動</p> <p>2 めあての確認</p> <p>キャッチのめい人になろう！</p> <p>3 ボールを真上に投げ、3回拍手や一回転してからボールをつかむ運動をする。</p> <p>4 パス練習 短い距離から始め、次第に離れて練習する。</p> <p>5 「パスゲーム」をする。</p> <p>6 後片付け、整理運動、ふりかえりをする。</p>			① ②
5	<p>1 用具の準備、準備運動</p> <p>2 めあての確認</p> <p>はしごドッジのきまりをかंगाえよう！</p> <p>3 数種類の大きさのコートで中あてをする。</p> <p>4 行う時間や使うコートを変えるなどして、適した1ゲームあたりの時間やコートの広さをみんなで決める。</p> <p>5 後片付け、整理運動、ふりかえりをする。</p>		①	

6	1 用具の準備、準備運動 2 めあての確認 シュート・キャッチのめい人になろう！ 3 自分の本時の目標を考える。 4 はしごドッジをする。(1ゲーム□分) 5 後片付け、整理運動、ふりかえりをする。			① ②
7 本時	1 用具の準備、準備運動 2 めあての確認 どんどんなげよう・どんどんつかもう！ 3 自分の目標、ペアの目標を考える。 4 はしごドッジをする。(1ゲーム□分) 5 後片付け、整理運動、ふりかえりをする。	①	②	
8	1 用具の準備、準備運動 2 めあての確認 ドッジボールをおもいきりたのしもう！ 3 ゲーム 3ペアを1チームにしてドッジボールをする。 4 後片付け、整理運動、ふりかえりをする。	①		① ②

8 本時案 (第7時/全8時間)

(1) 本時のねらい

- ボールをこわがらずに積極的にボールを投げたりつかんだりしている。(関心・意欲・態度)
- 自分の目標やペアの目標を考えて活動している。(思考・判断)

(2) 本時の評価規準

関心・意欲・態度	前回までに練習したことを思い出し、積極的にゲームに参加している。
思考・判断	自分に合った目標を考えている。

(3) 本時における判断基準及び評価方法

	A	B	到達できない児童への支援	評価方法
関心・意欲・態度 (評価①)	ボールを怖がらず積極的にゲームに参加している。	ルールや決まりを守ってゲームに参加している。	勝ち負けにこだわるのではなく、ゲーム中にボールを触った回数に意識を向けるようにする。	観察
思考・判断 (評価②)	自分やペアに合った目標を考えている。	自分に合った目標を立てている。	ゲーム終了の直後に、どのような様子であったかを伝え、次のゲームの目標を考えさせるようにする。	観察 発表

(4) 展開

時間	学習活動	指導者の支援 (○)・評価 (☆)	準備物
0	1 準備運動をする。	○肩関節や腕の筋肉、手首・足首などを意識してほぐすようにする。	
5	2 めあての確認をする。	○めあてを意識して学習に取り組むように促す。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> どんどん投げよう、どんどんつかもう！ </div>			
10	3 各自の本時の目標を考える。	○「当たっても良いので○回は必ずボールにさわる」など具体的な目標を考えさせるようにする。 ☆自分やペアの課題に合った目標を考えている。(評価②)	・ 移動式ホワイトボード ・ 掲示物
15	4 「はしごドッジ」をする。 ・ 1ゲーム2～3分 ・ ゲームの間は1分	○各自がボールを当てた数、つかんだ数を覚えておくことを確認する。 ○大きく腕を振って投げるよう助言する。 ○飛んできたボールを、体の正面で受け止めるよう助言する。 ☆決まりやルールを守ってゲームに参加している。 ☆ボールを怖がらず積極的にゲームに参加している。(評価①)	・ コート ・ ボール
35	5 整理運動をする。	○児童の健康観察をしながら行う。	
40	6 振り返りをする。	○今回、自分が決めた目標やできたこと、頑張ったことを発表させ、次時への意欲を高める。	

○「はしごドッジ」について

ボールを投げたり、つかんだりする技能を身に付けることを目指した教材。

3種類の大きさのコートを使用する。

【ルール】

内野2人 外野2人 各コート横2m×縦4m程度

1ゲーム2～3分で、外野は数字の大きいコートへ、内野は数字の小さいコートへ移動する。

外野は内野を当てると1点、内野はボールをワンバウンドなしでつかむと1点。



